

第4回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

- 1 日 時 平成21年8月31日(月) 13時30分開会
15時56分閉会
- 2 場 所 糸魚川市役所 203・204 会議室
- 3 出席者 ・委員18名、
新井委員 池田委員 入沢委員 内山委員 小笠原委員
北村委員 佐藤委員 中山委員 福崎委員 藤野委員
穂苅委員 本庄委員 松澤委員 山岸委員 柳委員
山岸委員 山本委員 渡辺委員
(欠席)大月委員 後藤委員
・事務局
【市民課】金平課長 伊藤室長 木下参事 渡辺副参事
七澤主査 中村主任主事
【清掃センター】渡辺センター長
【能生事務所】中村主査
【青海事務所】二宮主任主事
【財団法人日本環境衛生センター】
秋月次長 富永課長 南技師
・傍聴者 なし
- 4 次 第
(1)開 会 進行 伊藤室長
(2)新委員紹介
(3)財団法人日本環境衛生センター職員及び新理事務局員紹介
(4)会長挨拶 山岸会長
(5)議 事 進行 山岸会長

<主な質疑・意見>

各項目について、資料に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

第1章ごみ処理基本計画の概要(素案)、第2章計画策定の背景(素案)の内容について

【質疑・意見】

委員)一般廃棄物処理基本計画にはごみと、生活排水が含まれるが、今回はごみのみについて策定するのか、生活排水については今後別に策定するのか。

事務局) 今回のごみ処理の計画策定。旧糸魚川市で平成 8 年にごみと生活排水について計画を策定しているが、生活排水については、下水道局で平成 15 年に内容を見直しして策定している。

委員) 地域概況の把握(市の人口動態、集落の分布動向、産業の動向、将来計画)が必要ではないか。

事務局) 第 2 章第 3 節「糸魚川市のすがた」に記載したい。人口推計は総合計画で推計しているので、それを用いたい。

委員) 第 1 章第 4 節「用語の定義」とには「量」の文字がついていない。

事務局) 全体を精査して「量」をつけるか検討したい。

委員) 用語の定義については、再度精査をお願いしたい。「中間処理」「施設資源化量」は一般の方にはわかりづらいのではないか。「中間処理」の言葉を使わなければならないのであれば、後ろに注意書きを付すなどしてほしい。

事務局) 「中間処理」についてわかりやすくしたい。

委員) 次回でよいので、表 2-1 の平成 9 年度数字、表 2-2 の平成 12 年度の数字を示してもらいたい。

事務局) 合併前の数字を集めて示したい。

委員) 用語については、難しい言葉もやむを得ないが、説明に工夫してほしい。

第 3 章ごみ処理の現状と課題

事務局から下記について補足説明があった。

- ・一般廃棄物最終処分場の適正化について
- ・第 7 節ごみ処理の評価について

【質疑・意見】

委員) 表 3-2、図 3-1 の 16 年度の前に 9 年度、12 年度の数字を入れることはできないか。

事務局) 入れるよう努力したい。

委員) 3 R 推進マイスターの委嘱についてはどのように考えるか。

事務局) 課題に書き加えたい。

委員) 第 4 節の中間処理施設が他にもあると思うので、掲載してはどうか。

事務局) 容器リサイクル法の関係するものはあるが、それ以外はない。そこで、3-8 ページに中間処理等の方法について検討することが必要との表記をした。

委員) 第 5 節に最終処分場の概要があるが、最終処分場は旧町を含めてこれだけか。

事務局) 一般廃棄物の処分場は大野だけとなる。記載はないが、産業廃棄物処分場は西海に安定型がある。

委員) 第 1 節の委託業者のキャパシティ、処理能力はどれくらいか。

事務局) 能力の表記については第 3 章に掲載していない。業者の能力としては十分あるので、検討していきたい。

委員) 3-1 ページ第 2 節に、ごみ総排出量が減少したとの記載があるが、減少は住民の努力なのか、人口減少なのか、教えてもらいたい。

事務局) 資源ごみが減って、ごみ総排出量が減少した。記載方法については、本文の中で検討したい。

委員) 3-6 ページ第 4 節に、食用油、乾電池、蛍光管は、拠点回収はわかるが、再生利用はどのようなことか。

事務局) 食用油は石鹼として再利用、蛍光管は平成 21 年から拠点回収している。乾電池と蛍光管は北海道の野村興産で資源回収されている。記載については検討したい。

委員) 平成 16 年度から平成 20 年度にごみ総排出量が減ったのは、分別が進んで、資源ごみが増えたからという理由では、資源ごみもごみ総排出量に含まれるのでおかしい。

事務局) 平成 19 年度まで、地域における資源物の集団回収の奨励事業を行っていたが、平成 20 年度には廃止したため、資源ごみの量が減少している。記載方法は検討していきたい。

委員) 表 2-1 には集団回収分が含まれているが、表 3-2 では含まれないとなると整合性が取れない。

事務局) 奨励事業を実施していたときは良かったが、廃止してから集団回収の量が正確に把握できない。できるだけ努力し反映させたい。

委員) 表 3-3 では蛍光管は資源となっていないが。

事務局) これまで資源ごみとしては回収してこなかったが、拠点回収後、資源回収としている。これまでは有害ごみとしての位置づけだったが、資源として回収を始めた。

委員) 表 3-1 最終処分の委託は飛田テックで、月いくらかかっているか。

事務局) 予算が 4,500 万円予算計上している。4 月から小型家電を金物として回収を始めたので、数字が減っている。8,400 円/トンとなっている。正確な数字は次回とさせていただきたい。飛田テックに埋立ごみを持ち込み、3 割資源回収、7 割をエコパークいずもざきの最終処分場へ運んでいる。

委員) 炭化炉では現在水銀等は検出されているか。またそれが原因で補修等が必要ということか。

事務局) 検出されていない。稼動していると磨耗なりで消耗していくので、改修が必要だ。あと何年使うということではなく、必要に応じて改修をしていく。

委員) 炭化炉は全国で何箇所くらいあるのか。

事務局) 4 か 5 箇所だと思う。

委員) 大野の処分場の問題は、知恵を出し合って、早急な対応を望みたい。大野、西海の住民が安心して暮らせるように皆さんから知恵をお借りしたい。

委員) 消費者協会ではいずもざきエコパークを視察した。施設、設備は非常にきれいで整理されていて、ごみの処理、日々の生活への安心を感じた。

委員) 大野の問題については、いつごろまでという期限を設けているか。

事務局) 3 月末までに詳細調査を実施している。水の流れ、地形なども含めて調査をしてもらっており、その結果を基に、適切な処置、今後の利用が可能かどうか、無理かの結論が出てくる。

委員) 大野は今後埋立不可という噂もあり、そうなると、新規に処分場

を求めることは非常に困難と思うが、その見通しはどうか。

事務局) 詳細調査の前に基礎調査をしてもらっている。考え付かなかった地すべりの土塊があるという報告も出ている。大野区の皆さんには心配をお掛けして申し訳ないが、市としては、日環に施設として継続利用が可能かどうかも含めて調査してもらっている。

委員) 大野の最終処分場を利用していくためには莫大な費用がかかるのではないか。そのために、別の方法を探す、考えるということも必要ではないか。

事務局) 資料がないので、別の機会にお願いできないか。

委員) 最終処分場の説明があったことに対する質疑である。
大野最終処分場を建設する際に環境アセスメントがされていないか。

事務局) 昭和 51 年度に建設されている。今の構造基準、管理基準からいっても不十分である。当時環境アセスメントが必要だったかはわからないが、途中では行っていないと思う。

委員) 最終処分場の基準ができたのは昭和 52 年、アセスメントの制度ができたのは平成に入ってからなので、この施設については環境アセスメントは実施していない。

委員) 浸出水の 1/3 は水銀などを測定しているということだが、2/3 は流しているということか。

事務局) 平成 7 年に水処理施設を作っており、当時 10 年間の数値を基に計算していたが、実際には雨がたくさん降ると流量計を超えることとなり、処理し切れていない。
現在は中間処理施設で破碎して減量して、最終処分場へ埋め立てている。今後も中間処理して埋め立てるという方法はやらなくてはならない。その際の費用はかかることとなる。

委員) 広大な敷地があれば別だが、破碎などの減量化は必要だ。

委員) 加賀市の最終処分場を見学したが、糸魚川のやり方は原始的。リサイクル設備も付属している。

委員) 3 - 4 ページ収集運搬の課題は、前頁の表とリンクしていない。この課題は第 2 回で審議したアンケートに基づいて掲載されている。

アンケート結果は一番後に参考資料として付けるなどして、関連性を持ってほしい。

委員) 3-7 ページ処理能力、老朽化のデータがなく、課題に結びつかない。データを挟んでほしい。

事務局) アンケートなどの表記を加えたい。

委員) 3-8 ページ資源化の課題のリサイクル率は、ごみの総排出量が分母、資源ごみ量・施設資源化量が分子。資源ごみを増やしても、総排出量が増えるからそれほどリサイクル率は上がらない。ごみ総排出量を少なくしても資源化量も減るので、リサイクル率は上がらない。今まで埋立てていたごみを資源にすることで率は上がる。

事務局) 分別の数を増やすのではなくて、ルール違反をせず、きちんと分別をお願いしたいという意味。4月から傘、小型家電を金物類での回収としたところ、埋立ごみが10%減少している。分別の周知徹底を図って、リサイクル率の向上につなげたい。総排出量の抑制もお願いしてはいるものの、すぐにはできることではない。広報等で分別を徹底していくということで記載させていただいた。

委員) 3-8 ページ資源化の課題で、金属類の積極的回収とあるが、どの表に不燃ごみに金属類が含まれていることがわかるか。データに基づかないと当たり前かもしれないが、行政の思い込みかもしれない。

事務局) 中間処理を何とかしていく中で、金属類も問題となってくるため、このような表記となった。2番目の課題を割愛し、3番目に含めて記載して、今後9月、10月の審議会の中で、中間処理についての考えを示したい。

委員) ごみの総排出量を減らすことは大事だ。

委員) コンポストを普及すると家庭ごみは減る。

事務局) 旧系魚川市では平成4年くらいからコンポスト、ボカシの補助金を助成している。しかし3-13 ページ図3-4にあるように、1人1日当たりのごみ排出量が他より多い。これを減らす抜本的な対策がないことが今後の議論となってくると思う。

委員) 「資源ごみ」は表3-4の類をいう、などの表記が必要ではないか。

委員) 表3-6 中間処理による資源回収率はどのような意味があるか。

事務局) 今後の処理施設を検討するための現状を記載する際に、都合上載せた。今後、後半部分を記載していく中で、場合によっては見やすい形にしたい。

リサイクル率はごみの量が一定であれば、リサイクルすることで上がるという風に単純に考えている。なるべく分別をしてもらえば、リサイクル率は上がるというように、簡単に考えてもらえばいいと思う。

委員) 今の分別が少ないというデータはない。アンケートを読む限り、必死にやっていて、これからの課題でもある。アンケートにも分別がしっかりされていない、という記述はなかったように思う。ある程度分別されているのではないかという気がするので、リサイクル率の向上をするためには総量を減らすほうが良いのではないかとと思う。

委員) 図3-2 ゴミ処理フローをもう少し大きく描いてほしい。

委員) お知らせ版を見てももらえないので、区長会でも周知をしてもらえないか。

事務局) 区長会の方と相談させていただいて、分別説明会を開催させていただいたが、今後も周知に努めたい。

委員) おしらせ、回覧は、難しいことは書かずに、市民に周知することを第一に簡単に記載してほしい。

委員) 今年から埋立ごみから資源ごみに変わった傘などがあるので、リサイクル率は期待している。

事務局) 今年から変更した物に蛍光管があるが、500キロ/月 収集している。年間で5~6トンの見込み。小型電化製品は金物類で収集しているため、集計できないが、埋立ごみは10%減少している。

委員) 事業系ごみが増えているとはどういうことか。

事務局) 事業者として個々で契約、処理しているごみが増えている。

委員) 飛灰・残渣は今どこへ持って行っているか。

事務局) エコパークいずもざき。

委員) 次回までに教えてほしいが、日本で一箇所と聞いている糸魚川の

炭化炉方式だが、他市町村ではどのような方式を採っているか。安いのか高いのか。どれくらい炭化炉が持つのか。

委員)3 - 12 ページ表 3 - 11 ごみ処理の評価指標で、温室効果ガスの排出量は廃プラスチックの排出ではないのか。ごみを炭化する際の燃料などを Co2 換算した数値か。

事務局)収集車の燃料や、システム全体にかかる燃料などを数値化したもの。

委員)セメント工場へ持っていくということで、マイナスしているが、市特有で、他市町との単純な比較でよいのか。

事務局)ここで炭化処理をしている(再資源化)というプラスの面を、ここで評価しないと平均値より高くなってしまふ。炭化していることで、むしろ排出量が多いという逆の評価となってしまう。炭化物を生成していることで、抑えられている Co2 の発生量も見えてあげないとせっかく炭化している意味がなくなってしまう。

委員)細かい数字を次回でも示してもらえればと思う。

委員)3 - 10 ページ表 3 - 10 埋立容量の推移で残余年数を表記してはどうか。

事務局)削除してある。実際大野の処分場を利用していないので、掲載していない。中間処理を進めることで数字が変わってくることもあるので、検討したい。

(6) 次回の日程

次回の審議会開催は 10 月上旬国体終了後、時間帯は午後 1 時 30 分からを予定している。決まり次第ご案内させていただきます。

(7) 副会長挨拶

(8) 閉会